
歌よ届け大切なあなたに

星野由香里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歌よ届け大切なあなたに

【Nコード】

N4547Z

【作者名】

星野由香里

【あらすじ】

昔会ったことのある2人。でもそれは・・・出会いと別れであった。

ある少女の歌は大切なあなたに届くのだろうか？

s o n g o

登場人物（前書き）

初めてのオリジナル小説です。
ぜひ、読んでください。

songo

登場人物

佐藤亜由美

花岡高校1年生。

ある、少年を探しにやってきた。

歌を歌うのが得意。

将来、シンガーソングライターになるのが夢。

高橋昴

花岡高校1年生

亜由美のことを知っている。

亜由美の初恋の相手。

サッカー部に所属。

亜由美のことが気になっている。

将来サッカー選手になるのが夢。

水野真紀

花岡高校1年生

昴の幼馴染

昴のことが好き

演劇部に所属。

将来女優になるのが夢。

藤村翼

花岡高校1年生

昴の幼馴染

亜由美に会って一目ぼれする。

昴と同じサッカー部に所属。

昴と同じサッカー選手になるのが夢。

s o n g o

登場人物（後書き）

初めてのオリジナル作品なので、ぜひ、お読みください。

song 1 出会い

ある少女がやってきた。

初恋の相手を探すために……

「わーここが花岡町か……すごいな。」

そう、この少女が……

佐藤亜由美。

天才少女だ。

「歌でも歌おう。」

君がいて僕がいる
僕がいて君がいる
大好きだよ

君へ」

「なんだ、このきれいな歌は？」

「あ、・・・・・・・・あれは亜由美？」

「すみません、花岡高校に行きたいんですけど、道わかりますか？」

「ああ、君の歌すごいね。うまいよ。」

「へたくそですよ。お名前は？」

「高橋昴だ。昴って呼んで。」

「うん。私は佐藤亜由美、亜由美って呼んで。」

「なあ、亜由美何でこの町に来たんだ？」

「えっと、初恋の人を探しに来たんだ。」

「初恋の人って？」

「それが……初恋の人の名前わからないんだ。すばるっていうんだけど……」

「そうなのか。全然気づいてないのか。」

「何か言った？」

これこそが佐藤亜由美と高橋昂の出会いであった。

学校

「ホームルーム始めるぞ。転校生が来てるぞ。入れ。」

「初めまして、隣町から来た、佐藤亜由美です。趣味は音楽です。」

「これからよろしくお願いします。」

「あーーーーー昂君!？」

「おーーーー亜由美じゃねえか。」

「嬉しいな。よろしくね。昂君。」

「ねえ、昂、あの人って誰？」

「俺の初恋の人だ。」

「え、初恋の人いたの？」

「ああ、昔にあったんだ。」

「なあ、水野どうした？」

水野真紀は実は・・・高橋昂のことが好きだった。

甘くてせつない恋が始まることとしていた

song 4

放課後

放課後

「なあ、昴君、校舎案内してくれない？」

「いいぜ。そのかわり・・・」

「その代り、俺の前で歌ってくれよ。」

「いいけど、なんで？」

「亜由美の歌が好きだから。」

「嬉しい、生まれて初めて言われた。」

「いいよな？」

「うん。」

学校案内終わり

「どこで歌おうかな？」

「どこでもいいぜ。」

「あ、あそこで歌うね。」

「ああ。」

「悲しみは終わる日が来るから
希望を持って生きていこう
くじけても前に進もう
光があるから」

前に、前に進んで行こう

明日に・・・」

「どうかな？」

「よかった。感動した。」

「嬉しい。ありがとう。そつだ、昂君の夢ってなに？」

「俺は・・・サッカー選手。亜由美は？」

「シンガーソングライター、変だよな。」

「いいや、いいんじゃないか。」

「ありがとう、初めてほめてくれたから。」

「え。」

「私、夢バカにされて生きてきたんだ。」

「そうだったか・・・」

「でも、あきらめない。歌うのが好きだから。」

「お互いあきらめずに頑張ろうな。」

「うん、ありがとう昴君。初恋の人となんか似てるな。」

「そりゃあだつて、俺だもん。初恋の相手。」

家の前

「送ってくれてありがとう、また明日。」

「ああ。」

そうやって一日が終わった。

SONGS 歌

家に帰った亜由美は……

風呂に入っていた。

「今日はよかった。昂君に案内してもらえて。何かお礼したいな。考えよう。」

風呂上り……

「あー今日も疲れた。明日も頑張らなきゃ。シンガーソングライターになりたいな。」
初恋の人も私のこと覚えてるかな？」

「寝よう、お休み。」

朝

「やばい、遅刻しちゃう。急げー」

「あ、おはよう昴君。」

「おお、亜由美おはよう。」

「あの……その人って誰？」

「あ、あたし、水野真紀っていの。真紀って呼んで。亜由美って呼んでいい?」

「うん。真紀ちゃんって呼んでいい?」

「うん、これからもよろしくね。」

「おはようみんな。」

「おはよう、佐藤さん。」

「ねえ、佐藤さん、昴君とはいったいどんな関係なの？」

「え、友達だよ。」

「なんだ。そつだ亜由美って呼んでいい？」

「もちろん。」

「あ、屋上行こう。そこで歌おう。」

屋上

「あーよく寝た。」

「あれ、何か聞こえる。」

「君がいて僕がいる
僕がいて君がいる
愛してる、愛してる

君へ」

「あ、人がいたの！」

「あんた誰？」

「最近引越してきた、佐藤亜由美って言います。あなたは？」

「俺は藤村翼、よろしく。」

「翼君って呼んでいい？」

「ああ、俺は佐藤って呼ぶな。」

「うん。」

「あ、いた、亜由美どこにいたんだ？」

「ごめんなさい、屋上に行きたかったの。」

「おい、昴、佐藤のこと知ってるのか？」

「ああ、」

「なんだ、お二人ともお知り合いだったんだ。」

「ああ。」

藤村翼は佐藤亜由美に恋をした

甘くて切ない恋を・・・

song

合唱コンクールの練習

とうとう、合唱コンクールの時期がやってきた

「亜由美って、ソロ歌える?」

「歌えるよ。」

「そうだ、亜由美の歌聞かせてくれない?」

「いいよ。」

「君がいて僕がいる

僕がいて君がいる

愛してる

愛してる

大好きな君へ」

放課後

「昴君、そんなによかったのかな？」

「ああ、よかったと俺は思う。」

「ありがとう、昴君に言われると勇気出るよ。」

「そうか。」

「ありがとう。また明日。」

「おう、また明日。」

っと一日がおわっていった。

song 合唱コンクール

とつとつやってきた。

合唱コンクール

「みんな、頑張るよ、エイエイオー」

「続きまして1・6の番です」

「君がいて僕がいる
僕がいて君がいる
愛してる
愛してる
大好きな君へ」

「昴君勝ったよ。嬉しすぎて涙が出てきちゃった。」

「泣くなよ、ほれハンカチ。」

「あり……がとう。」

こうして合唱コンクールは終わった

やっと終わった。

家

初恋の人もしかして・・・

昴君かな？

不思議そうに思った亜由美であった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4547z/>

歌よ届け大切なあなたに

2011年12月17日11時54分発行